

特別企画：四国地区 主要 8 行の預金・貸出金等実態調査
(2020 年 9 月中間期)

貸出金残高 17 兆 1,761 億円、増加率トップは徳島大正銀行

～ 利ざやは 8 行中 4 行で減少 ～

はじめに

新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済停滞の緩衝材として、金融機関が存在感を示している。なかでも、制度融資やリスケジュール対応など、銀行の柔軟な対応による事業者の倒産回避の功績は大きい。一方、SBI グループの“第 4 のメガバンク構想”による資本業務提携など地銀再編の動きがあるなかで、地方銀行の先行きを不安視する声も少なくないのが現状だ。

そこで、帝国データバンク高松支店は、四国 4 県に本店が所在する地銀 8 行（阿波、伊予、四国、百十四、愛媛、香川、高知、徳島大正）の 2020 年 9 月末および 2019 年 9 月末の預金、貸出金の残高、2020 年 9 月中間期（2020 年 4 月～2020 年 9 月）および 2019 年 9 月中間期（2019 年 4 月～2019 年 9 月）の預金利息（支出）、貸出金利息（収入）の推移について調査・分析した。

※ 各数値は各行の決算短信（単体ベース）に記載されている数値（単位：百万円）を採用

※ 徳島大正銀行は、2020 年 1 月 1 日に徳島銀行と大正銀行が合併して発足したため、2019 年 9 月末の数値は両行の合算値を計上している

調査結果

□ 預金残高、8 行すべてで増加、増加率トップは高知銀行

四国 4 県に本店を置く主要 8 行合計の 2020 年 9 月末の預金残高は 22 兆 6,231 億 2,300 万円で、2019 年 9 月末より 1 兆 3,759 億 2,700 万円増加（6.5%増）。全国（109 行、9.7%増）との比較では 3.2 ポイント下回る。増加率トップは高知銀行（12.3%増）。

□ 貸出金残高、8 行すべてで増加、増加率トップは徳島大正銀行

主要 8 行の貸出金残高は 17 兆 1,761 億 3,500 万円となり、2019 年 9 月末比で 8,279 億 8,400 万円増加（5.1%増）。全国（109 行、5.7%増）との比較では 0.6 ポイント下回る。増加率トップは徳島大正銀行（6.4%増）。

□ 利ざや、8 行中 4 行で減少、増加率トップは阿波銀行

主要 8 行の収支「貸出金利息（収入）－預金利息（支出）の差額＝本業利ざや」は、935 億 4,900 万円となり、2019 年 9 月中間期比で 15 億 100 万円減少（1.6%減）。全国（109 行、3.6%減）との比較では 2.0 ポイント上回る。増加率トップは阿波銀行（2.0%増）。

□ 全国地域別（地方銀行、第二地方銀行の計 102 行が対象）、預金・貸出金ともに 9 地域すべてで増加

増加率は、預金・貸出金ともに「北海道」がトップ。利ざやが増加したのが「北海道」のみで、「東北」が横ばい、その他 6 地域が減少した。

1. 預金残高、8 行すべてで増加、増加率トップは高知銀行

2020 年 9 月末の四国の主要 8 行の預金残高は 22 兆 6,231 億 2,300 万円となり、2019 年 9 月末比で 1 兆 3,759 億 2,700 万円増加（6.5%増）した。8 行すべてで預金を伸ばし、預金残高の増加が続いている。なお、全国（109 行）の増減率（9.7%増）との比較では、3.2 ポイント下回った。

銀行別に預金残高の増減をみると、増加率のトップは高知銀行（12.3%増）で、唯一 10%を超えた。次いで香川銀行（9.2%増）、阿波銀行（7.6%増）、愛媛銀行（7.0%増）、伊予銀行・四国銀行（各 6.9%増）と続いた。

また、8 行が 2020 年 9 月中間期（半年間）に預金者へ支払った預金利息は 31 億 6,800 万円となり、2019 年 9 月中間期比で 30 億 900 万円減少（48.7%減）した。8 行すべてで減少し、預金利息は前年同時期を大きく下回った。なお、全国（109 行）の増減率（67.3%減）との比較では、18.6 ポイント上回った。

銀行別に預金利息の増減をみると、増加した銀行はなく、減少率が最も大きかったのは伊予銀行（65.4%減）であった。次いで百十四銀行（64.9%減）、愛媛銀行（41.0%減）、四国銀行（33.3%減）、阿波銀行（28.0%減）が続いた。

預金残高は 8 行すべてで増加したもの、低金利などの影響により預金利息は 8 行すべてで減少した。

四国地区主要8行の預金残高

銀行名	預金残高(単位:百万円)		前年同月比 増減(%)
	2019年9月末	2020年9月末	
阿波銀行	2,760,899	2,969,974	7.6
伊予銀行	5,288,550	5,652,656	6.9
四国銀行	2,603,331	2,783,222	6.9
百十四銀行	4,138,547	4,300,776	3.9
愛媛銀行	1,989,363	2,127,679	7.0
香川銀行	1,544,299	1,686,462	9.2
高知銀行	916,845	1,029,827	12.3
徳島大正銀行	2,005,362	2,072,527	3.3
合計(四国主要8行)	21,247,196	22,623,123	6.5
全国(主要109行)	771,848,057	846,734,168	9.7

※2020年1月に徳島大正銀行が発足したため、同行の2019年9月末は徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

四国地区主要8行の預金利息

銀行名	預金利息(単位:百万円)		前年同期比 増減(%)
	2019年9月 中間期	2020年9月 中間期	
阿波銀行	482	347	▲ 28.0
伊予銀行	2,433	842	▲ 65.4
四国銀行	276	184	▲ 33.3
百十四銀行	1,158	406	▲ 64.9
愛媛銀行	776	458	▲ 41.0
香川銀行	343	327	▲ 4.7
高知銀行	200	193	▲ 3.5
徳島大正銀行	509	411	▲ 19.3
合計(四国主要8行)	6,177	3,168	▲ 48.7
全国(主要109行)	768,286	250,981	▲ 67.3

※2020年1月に徳島大正銀行が発足したため、同行の2019年9月末は徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

2. 貸出金残高、8 行すべてで増加、増加率トップは徳島大正銀行

2020 年 9 月末の四国の主要 8 行の貸出金残高は 17 兆 1,761 億 3,500 万円となり、2019 年 9 月末比で 8,279 億 8,400 万円増加（5.1%増）した。8 行すべてが貸出金を伸ばし、貸出金残高の増加が続いている。なお、全国（109 行）の増減率（5.7%増）との比較では、0.6 ポイント下回った。

銀行別に貸出金残高の増減をみると、増加率のトップは徳島大正銀行（6.4%増）で、次いで香川銀行・高知銀行（各 5.8%増）、伊予銀行（5.6%増）、阿波銀行（5.5%増）と続いた。

また、8 行が 2020 年 9 月中間期（半年間）に融資先から受け取った貸出金利息は 967 億 1,700 万円となり、2019 年 9 月中間期比で 45 億 1,000 万円減少（4.5%減）した。なお、全国（109 行）の増減率（17.1%減）との比較では、12.6 ポイント上回った。

銀行別に貸出金利息の増減をみると、増加率のトップは香川銀行（1.5%増）で、次いで阿波銀行（0.7%増）が続き、貸出金利息が増加したのは 2 行にとどまった。一方で、貸出金利息の減少率が最も大きかったのは百十四銀行（8.9%減）であった。次いで伊予銀行（8.2%減）、愛媛銀行（5.7%減）、徳島大正銀行（3.1%減）、四国銀行（0.7%減）が続き、この 5 行が減少した。

貸出金残高は 8 行すべてで増加したものの、制度融資など低金利の影響や競合などから、貸出金利息の増加は 2 行（構成比 25.0%）にとどまった。

四国地区主要8行の貸出金残高

銀行名	貸出金残高(単位:百万円)		前年同月比 増減(%)
	2019年9月末	2020年9月末	
阿波銀行	1,919,772	2,026,008	5.5
伊予銀行	4,617,501	4,874,584	5.6
四国銀行	1,754,248	1,846,820	5.3
百十四銀行	2,845,870	2,964,531	4.2
愛媛銀行	1,677,210	1,716,117	2.3
香川銀行	1,259,278	1,331,897	5.8
高知銀行	700,926	741,395	5.8
徳島大正銀行	1,573,346	1,674,783	6.4
合計(四国主要8行)	16,348,151	17,176,135	5.1
全国(主要109行)	539,679,921	570,387,852	5.7

※2020年1月に徳島大正銀行が発足したため、同行の2019年9月末は徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

四国地区主要8行の貸出金利息

銀行名	貸出金利息(単位:百万円)		前年同期比 増減(%)
	2019年9月 中間期	2020年9月 中間期	
阿波銀行	11,754	11,839	0.7
伊予銀行	27,371	25,124	▲ 8.2
四国銀行	9,905	9,831	▲ 0.7
百十四銀行	14,774	13,459	▲ 8.9
愛媛銀行	12,705	11,980	▲ 5.7
香川銀行	8,278	8,403	1.5
高知銀行	5,031	5,031	0.0
徳島大正銀行	11,409	11,050	▲ 3.1
合計(四国主要8行)	101,227	96,717	▲ 4.5
全国(主要109行)	3,610,457	2,991,626	▲ 17.1

※2020年1月に徳島大正銀行が発足したため、同行の2019年9月末は徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

3. 利ざや動向、8 行中 4 行が減少

2020 年 9 月中間期（半年間）の四国主要 8 行の収支「貸出金利息（収入）－預金利息（支出）の差額＝本業利ざや」は 935 億 4,900 万円となり、2019 年 9 月中間期比で 15 億 100 万円減少（1.6%減）した。なお、全国（109 行）の増減率（3.6%減）との比較では 2.0 ポイント上回った。

銀行別に利ざやの増減をみると、増加率のトップは阿波銀行（2.0%増）で、次いで香川銀行（1.8%増）、四国銀行（0.2%増）、高知銀行（0.1%増）が続き、この 4 行が増加した。一方で、利ざやの減少率が最も大きかったのは百十四銀行（4.1%減）であった。次いで愛媛銀行（3.4%減）、伊予銀行（2.6%減）、徳島大正銀行（2.4%減）が続き、この 4 行が減少した。

四国地区主要8行の利ざや（貸出金利息－預金利息）

銀行名	利ざや（単位：百万円）		前年同期比増減（%）
	2019年9月 中間期	2020年9月 中間期	
阿波銀行	11,272	11,492	2.0
伊予銀行	24,938	24,282	▲ 2.6
四国銀行	9,629	9,647	0.2
百十四銀行	13,616	13,053	▲ 4.1
愛媛銀行	11,929	11,522	▲ 3.4
香川銀行	7,935	8,076	1.8
高知銀行	4,831	4,838	0.1
徳島大正銀行	10,900	10,639	▲ 2.4
合計（四国主要8行）	95,050	93,549	▲ 1.6
全国（主要109行）	2,842,171	2,740,645	▲ 3.6

※2020年1月に徳島大正銀行が発足したため、同行の2019年9月末は徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

4. 全国地域別、預金残高・貸出金の増加率トップは「北海道」

全国の地方銀行、第二地方銀行の計 102 行について、本店所在地（都道府県別）の地域別（9 地域）にみると、2020 年 9 月末の預金残高並びに貸出金残高は、2019 年 9 月末に比べ、いずれもすべての地域で増加した。

預金残高の増加率が最も高かったのは「北海道」（11.0%増）で、次いで「九州」（8.9%増）、「中国」（8.6%増）と続き、「四国」（6.5%増）は「近畿」（6.5%増）とともに 9 地域中最も低かった。貸出金残高の増加率が最も高かったのは「北海道」（8.2%増）で、次いで「九州」（7.8%増）、「近畿」（6.6%増）と続き、「四国」（5.1%増）は 9 地域中 6 番目であった。

また、2020 年 9 月中間期の預金利息並びに貸出金利息は、2019 年 9 月中間期に比べ、いずれもすべての地域で減少した。預金利息の減少率が最も大きかったのは「関東」（60.9%減）であった。次いで「中部」（53.7%減）、「九州」（53.2%減）が続いた。貸出金利息の減少率が最も大きかったのは「中国」（4.7%減）であった。次いで「四国」（4.5%減）、「中部」（4.2%減）が続いた。

利ざやは、増加したのが「北海道」（0.1%増）のみで、「東北」が横ばい、その他 6 地域で減少した。

		2019年9月末	2020年9月末	2019年9月末比 増減額・増減比(%)	
北海道 (2行)	預金	13,198,819	14,655,496	1,456,677	▲ 11.0
	預金利息	351	238	▲ 113	▲ 32.2
	貸出金	10,253,309	11,097,131	843,822	8.2
	貸出金利息	49,774	49,718	▲ 56	▲ 0.1
	貸出金利息－預金利息	49,423	49,480	57	0.1
東北 (15行)	預金	32,481,985	34,912,144	2,430,159	7.5
	預金利息	2,715	1,769	▲ 946	▲ 34.8
	貸出金	23,013,872	24,091,147	1,077,275	4.7
	貸出金利息	115,065	114,170	▲ 895	▲ 0.8
	貸出金利息－預金利息	112,350	112,401	51	0.0
関東 (15行)	預金	74,239,738	80,533,028	6,293,290	8.5
	預金利息	15,123	5,914	▲ 9,209	▲ 60.9
	貸出金	60,228,288	62,688,248	2,459,960	4.1
	貸出金利息	327,812	317,540	▲ 10,272	▲ 3.1
	貸出金利息－預金利息	312,689	311,626	▲ 1,063	▲ 0.3
北陸 (9行)	預金	22,834,651	24,735,988	1,901,337	8.3
	預金利息	1,908	1,327	▲ 581	▲ 30.5
	貸出金	16,594,462	17,074,082	479,620	2.9
	貸出金利息	80,152	78,480	▲ 1,672	▲ 2.1
	貸出金利息－預金利息	78,244	77,153	▲ 1,091	▲ 1.4
中部 (16行)	預金	57,669,911	61,882,743	4,212,832	7.3
	預金利息	13,779	6,380	▲ 7,399	▲ 53.7
	貸出金	45,058,444	47,828,795	2,770,351	6.1
	貸出金利息	257,280	246,566	▲ 10,714	▲ 4.2
	貸出金利息－預金利息	243,501	240,186	▲ 3,315	▲ 1.4
近畿 (7行)	預金	32,594,010	34,724,593	2,130,583	6.5
	預金利息	6,704	3,942	▲ 2,762	▲ 41.2
	貸出金	25,812,695	27,512,708	1,700,013	6.6
	貸出金利息	130,554	129,546	▲ 1,008	▲ 0.8
	貸出金利息－預金利息	123,850	125,604	1,754	1.4
中国 (9行)	預金	29,377,625	31,892,823	2,515,198	8.6
	預金利息	8,228	4,930	▲ 3,298	▲ 40.1
	貸出金	23,885,149	25,246,233	1,361,084	5.7
	貸出金利息	127,629	121,571	▲ 6,058	▲ 4.7
	貸出金利息－預金利息	119,401	116,641	▲ 2,760	▲ 2.3
四国 (8行)	預金	21,247,196	22,623,123	1,375,927	6.5
	預金利息	6,177	3,168	▲ 3,009	▲ 48.7
	貸出金	16,348,151	17,176,135	827,984	5.1
	貸出金利息	101,227	96,717	▲ 4,510	▲ 4.5
	貸出金利息－預金利息	95,050	93,549	▲ 1,501	▲ 1.6
九州 (21行)	預金	50,164,990	54,652,864	4,487,874	8.9
	預金利息	6,231	2,913	▲ 3,318	▲ 53.2
	貸出金	43,827,842	47,227,840	3,399,998	7.8
	貸出金利息	245,920	242,078	▲ 3,842	▲ 1.6
	貸出金利息－預金利息	239,689	239,165	▲ 524	▲ 0.2
102行 合計	預金	333,808,925	360,612,802	26,803,877	8.0
	預金利息	61,216	30,581	▲ 30,635	▲ 50.0
	貸出金	265,022,212	279,942,319	14,920,107	5.6
	貸出金利息	1,435,413	1,396,386	▲ 39,027	▲ 2.7
	貸出金利息－預金利息	1,374,197	1,365,805	▲ 8,392	▲ 0.6

※2019年9月末は徳島大正銀行発足により、徳島銀行と大正銀行の合計値で集計

単位：百万円

5. まとめ

今回の調査で、四国地区の主要8行における2020年9月末の貸出金残高は、17兆1,761億3,500万円となり、2019年9月末と比べて8,279億8,400万円増加（5.1%増）した。増加の背景には、新型コロナウイルス感染拡大に伴う社会情勢の変化がある。実質無金利・無担保融資など制度融資による資金調達を行った企業が多数あったほか、制度融資の対象外となった大企業においても新型コロナウイルス対応として資金調達する動きがあった。また、2020年9月末の預金残高は、22兆6,231億2,300万円となり、2019年9月末と比べて1兆3,759億2,700万円増加（6.5%増）した。これは、前述した制度融資などで企業が調達した資金は各企業の口座に入金されるため、預金残高の増加要因となった。また、個人に一律10万円が支給された特別定額給付金、中小企業・個人事業主向けに支給された持続化給付金なども増加要因となっている。

一方、預金者へ支払った預金利息は、2019年9月中間期（61億7,700万円）と比べ2020年9月中間期（31億6,800万円）は減少。同じく貸出金利息も、2019年9月中間期（1,012億2,700万円）と比べ2020年9月中間期（967億1,700万円）は減少した。これに伴い、利ざやも前年同期比で15億100万円減少（1.6%減）している。

このコロナ禍においては、銀行を経由して企業に資金が注入されたことで、倒産回避の効果が大きいにあったものとみられる。一方、銀行の本業利ざやが悪化するなど、延命措置には副作用もある点に留意する必要があるだろう。今後は、地銀再編をキーワードとした金融界の再編や、今年11月に金融庁が設置した「事業者を支える融資・再生実務のあり方に関する研究会」などで議論されている事業性評価の動向が銀行決算に大きな影響を与えていくこととなるであろう。

【 内容に関する問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク 高松支店 担当：須賀原 欣彦、青木 真人

TEL：087-851-1571 FAX：087-851-3837

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。